

令和6年11月19日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和6年10月分

～令和6年10月 データから見た業界の動き～

令和6年11月19日 発表

非製造業の売上高D.I値が大きく低下
人手不足によって仕事量を制限する事業者が多数



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

～令和6年10月 データから見た業界の動き～

令和6年11月19日 発表

非製造業の売上高D.I値が大きく低下 人手不足によって仕事量を制限する事業者が多数

■ 概 況

10月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲2ポイント（前年同月比 8ポイント↓）

収益状況 +4ポイント（前年同月比 6ポイント↑）

景況感 ▲12ポイント（前年同月比 2ポイント↓）となり、収益状況が前年同月を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲5ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

収益状況 ±0ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

景況感 ▲30ポイント（前年同月比 ±0ポイント）となった。

売上高・収益状況D.I値が上昇（ともに+15ポイント）したが、「半導体関連は10月に入っても新規の見積がほとんど無く、リピート品の受注量も減少している（電気機械器具製造業）」、「価格交渉を続けているが、運搬車両の運賃上昇分などを十分に転嫁出来ていない（骨材・石工品等製造業）」など、仕事量の確保・価格転嫁の状況は業種によって大きく偏りがあり、数値の回復が製造業全体の傾向とは言えない。

一方、非製造業では…

売上高 ±0ポイント（前年同月比 23ポイント↓）

収益状況 +7ポイント（前年同月比 ±0ポイント）

景況感 ±0ポイント（前年同月比 3ポイント↓）となった。

秋の行楽シーズンに入り、人流増加の好影響を受けた宿泊業や道路旅客運送業は先行きも明るい様子であったが、「製品価格の上昇によって、消費者（特に若年層）の購買意欲が低下している（ジュエリー製品卸売業）」、「諸物価の高騰による消費者の購買意欲低下を感じており、家電買い替えサイクルの長期化を予測している（電気機械器具小売業）」など、卸売業・小売業を中心に物価高騰による消費活動の低迷が起きており売上高D.I値が大きく低下（▲23ポイント）した。

また「年末に向けて県内外から警備依頼が増えているが、警備員不足で受注することができない（警備業）」、「人手不足が深刻であり施設によっては稼働を抑えて営業している（宿泊業）」など、人手不足によって仕事量を制限せざるを得ない事業者の報告も多く、売上低下の大きな要因となっている。

一部の価格転嫁は実現（全体の収益状況+6ポイント）しているが、「仕事量は確保できているが安価な契約を余儀なくされる場合があるため、経営状況が厳しい（型枠大工工事業）」を例に、業種によっては取引先からの値下げ要請（圧力）によって収益状況が一向に改善されていない。また「廃棄物処理業許可を必要としない認定事業者が、自治体との契約業務において実績づくりのために非公正な取引価格で契約するケースが増えている（廃棄物処理業）」との報告もあった。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています、お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	前年同月と比べ売上は99.7%となったが、製造に係るすべてのコストが上昇しており厳しい状況が続いている。
食料品 (洋菓子製造業)	店舗拡大効果によって前年同月と比べ売上は113%となった。原材料価格・運搬費などが高止まりしている。
食料品 (酒類製造業)	10月はワインの仕込み時期であるため、臨時従業員の雇用や半製品在庫の増加によって資金需要が増大する。
繊維・同製品 (織物)	組合員の減少によって総代会制が維持できず、総会制への移行を決議するため臨時総会を開催した。 事業者の減少など繊維業界を取り巻く環境は厳しさは増すばかりであり、サプライチェーンを含めて業界の再編について検討する必要がある。
繊維・同製品 (織物)	経営者・従業員の高齢化や後継者不足による廃業の増加によって組合員数が200人を下回ったため、臨時総会を開催し総代会制から総会制への移行を決議した。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は44%増加したが、先行きは不透明である。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに3%好転した。価格交渉を続けているが、運搬車両の運賃上昇分などを十分に転嫁出来ておらず、厳しい状況が続いている。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	景況感の好転を感じており、前年同月と比べ売上は3%増加した。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲30%となった。9月以降、半導体関連・設備関連の受注量減少が深刻化しており、先行きを不安視している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月比べ売上は▲10%・収益状況は▲5%となった。半導体関連について、9月の報告では秋口から来年にかけての状況改善を予測していたが、10月に入っても新規の見積はほとんど無く、リピータ品の受注量も減少している。 元請の受注量増加が組合員（2次・3次下請）まで波及しておらず、厳しい状況が続いている。
宝飾 (研磨)	前年同月と比べ売上は▲20%となった。原材料価格の高騰による製品価格の上昇が課題である。

● 非製造業

卸売 (塗料)	建築関係の仕事量が半減しており、前年同月と比べ売上は▲29%・収益状況は▲20%となった。
卸売 (ジュエリー)	金（1g=14,873円 ※前年同月から+40%）など原材料の価格高騰によって製品価格が上昇し、消費者（特に若年層）の購買意欲が低下している。在庫資産額も上昇したため増益となったが、実態とは一致しない。 販売数は前年同月比▲12%であり、製品単価が上昇しているため売上は確保することが出来ているが、十分に転嫁が進んでいるとは言えない。 また従業員の高齢化が進んでおり求人募集を行っても応募が無く、今後さらに人手不足が深刻化することを予測している。

小 売 (青 果)	前年同月と比べ売上は▲11%、収益状況は▲5%となった。天候不順によって野菜の出荷量が減少、価格が上昇しているが、果物（特にシャインマスカット）の売れ行きは好調であった。今年度は害虫被害も多かったため、柿など秋が旬の果物の流通量の減少を懸念している。
小 売 (電気機械器具小売業)	前年同月と比べ売上は▲3%、4月からの累計でも▲5%となっており、諸物価の高騰による消費者の購買意欲低下を感じる。今後は家電の買換えサイクルも長期化することを予測している。
商 店 街	大月駅周辺で有料駐車場が乱立しており、組合が管理する駐車場の売上が減少している。大月駅前の人流は増加している一方、商店街の客足は増えず、組合員は厳しい状況が続いている。大月駅利用者や周辺ホテルへ宿泊する外国人観光客などを商店街にどのように誘引するかが大きな課題である。
宿 泊 業	スポーツ大会などのイベントが多く開催され団体客が増加、施設の稼働状況も良かった。多くの宿泊施設で11月・12月の予約が殺到している様子である。
宿 泊 業	前年同月と比べ売上は8%増加した。宿泊業界全体で人手不足が深刻であり、施設によっては稼働を抑えて営業している。
産業廃棄物処理	売上は上向しているが人件費の増加によって収益状況は悪化している。
一般廃棄物処理	自治体との契約業務において廃棄物処理業許可を必要としない認定事業者が参入しているが、実績づくりのために非公正な取引価格（無償の場合もある）で契約するケースが多く、業界の秩序を保つため対応する必要がある。
警 備 業	天候不順によって中止となる現場が多く、前年同月と比べ売上は▲2%となった。警備員を新規に募集しても応募がなく高齢を理由とした退職者も多いため、年末に向けて県内外の建設会社等から警備依頼が増えているが、受注することができない。
自動車整備業	車検台数について、普通車15,828台（前年同月比+561台）、軽自動車11,516台（昨年同月比▲70台）※集計の都合上、9月末の数値
建 設 業 (総 合)	10月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は3.7%となったが、請負金額は38.7%増加した。9月末の累計件数は1.4%、請負金額は4.3%と僅かに増加した。建設業保証会社による景況調査では、10月～12月の地元建設業界の景気動向について「悪い傾向が続く」との見通しが示されているため、今後の動向を注視している。
建 設 業 (型 枠)	資材価格の高止まりに加えて人件費も増加しているが価格転嫁が進んでいない。仕事量は確保できているものの安価な契約を余儀なくされる場合があるため、経営状況が厳しい。
建 設 業 (鉄 構)	資材価格は僅かに下落傾向であるが、取引先からの加工賃の値下げ要請（圧力）によって収益状況が改善されず、図面決定の遅延も解消されない。元請のゼネコンが十分な利益を確保できない物件受注を見送っているため、今年度末まで鉄骨受注物件数の増加は見込めない。
設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上は15%・収益状況は148%好転した。管工機材の売上について空調機器の貢献が大きく、粗利ともに僅かに増加傾向である。
運 輸 (バ ス)	前年同月と比べ売上・収益状況ともに10%好転した。秋は観光のトップシーズンであるため11月まで売上は堅調に推移する予測である。

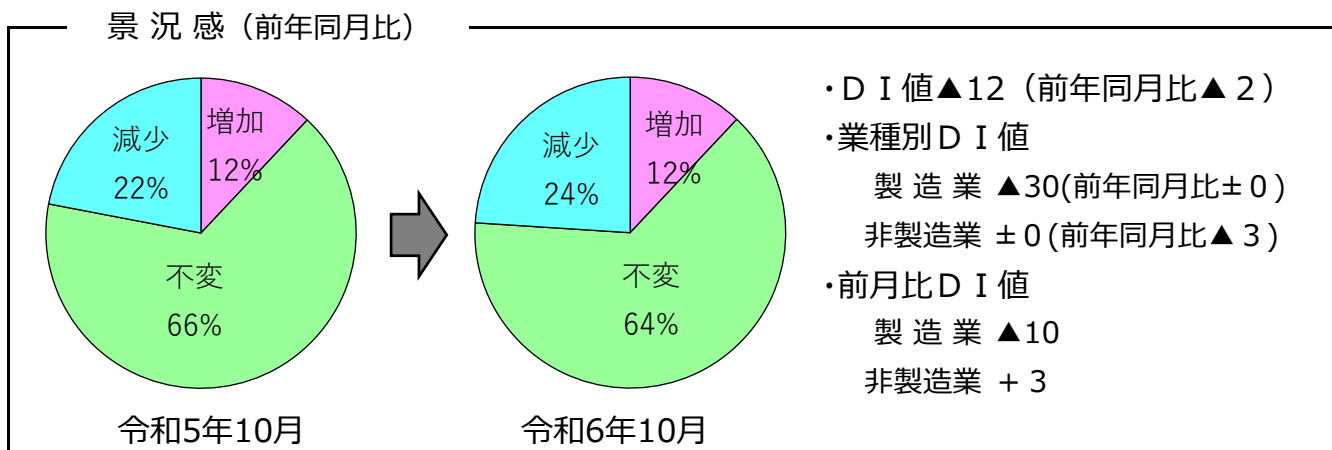
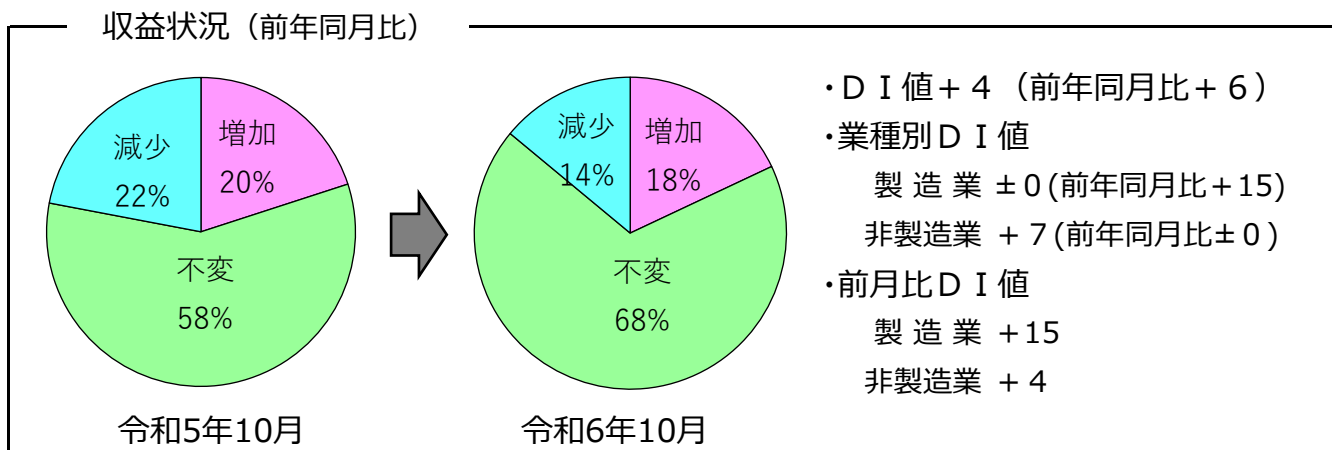
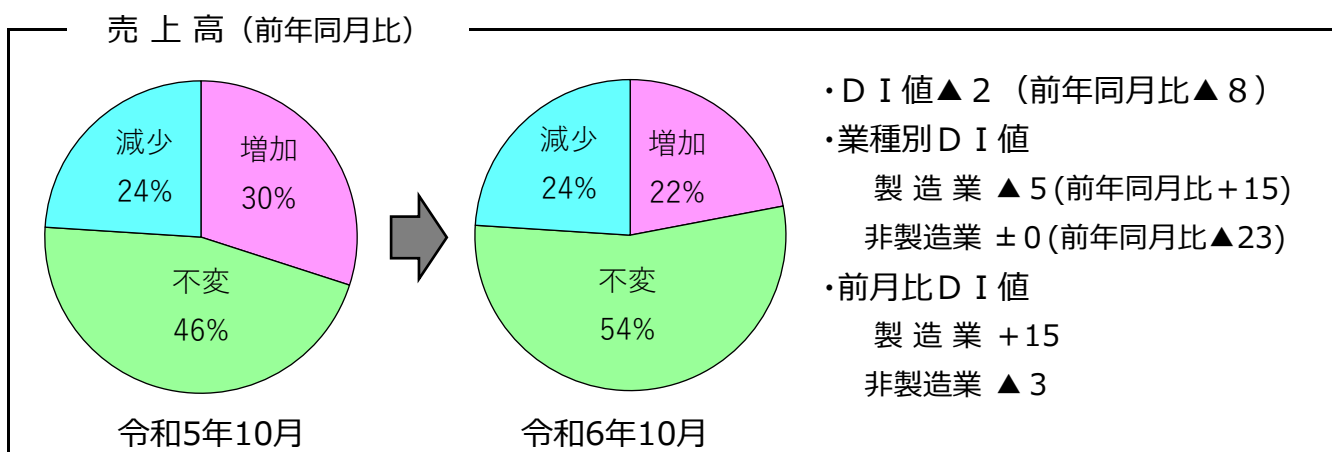
運 輸
(トラック)

輸送需要の高まりには一服感がある。
2024年問題への対応のため、運行の見直しや価格交渉に取り組む事業者が増えているが、課題は
まだまだ山積みである。

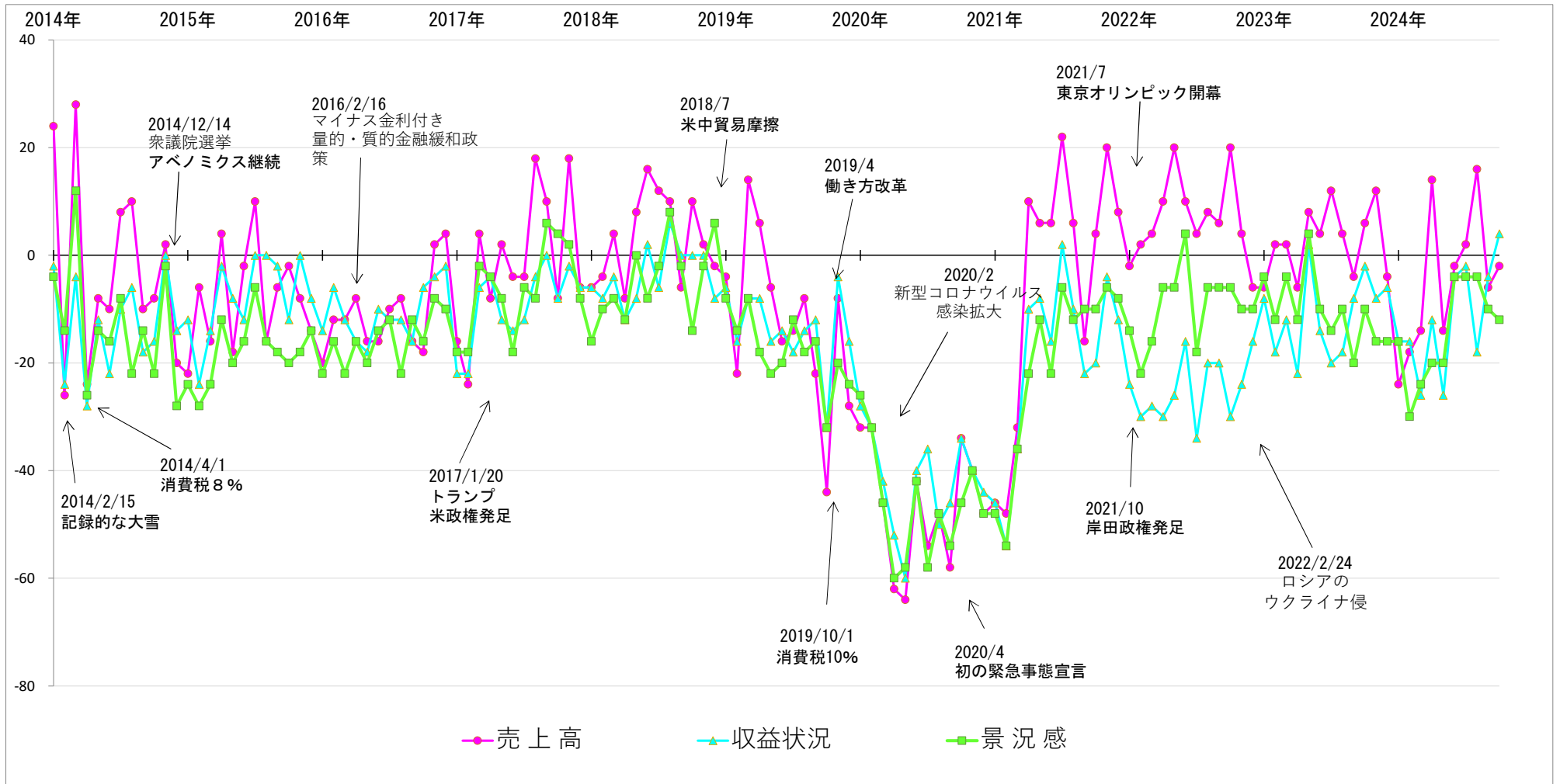
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年10月	2024年9月	2024年10月	2023年10月	2024年9月	2024年10月	2023年10月	2024年9月	2024年10月
売上高	▲ 20	▲ 20	▲ 5	23	3	0	6	▲ 6	▲ 2
収益状況	▲ 15	▲ 15	0	7	3	7	▲ 2	▲ 4	4
景況感	▲ 30	▲ 20	▲ 30	3	▲ 3	0	▲ 10	▲ 10	▲ 12

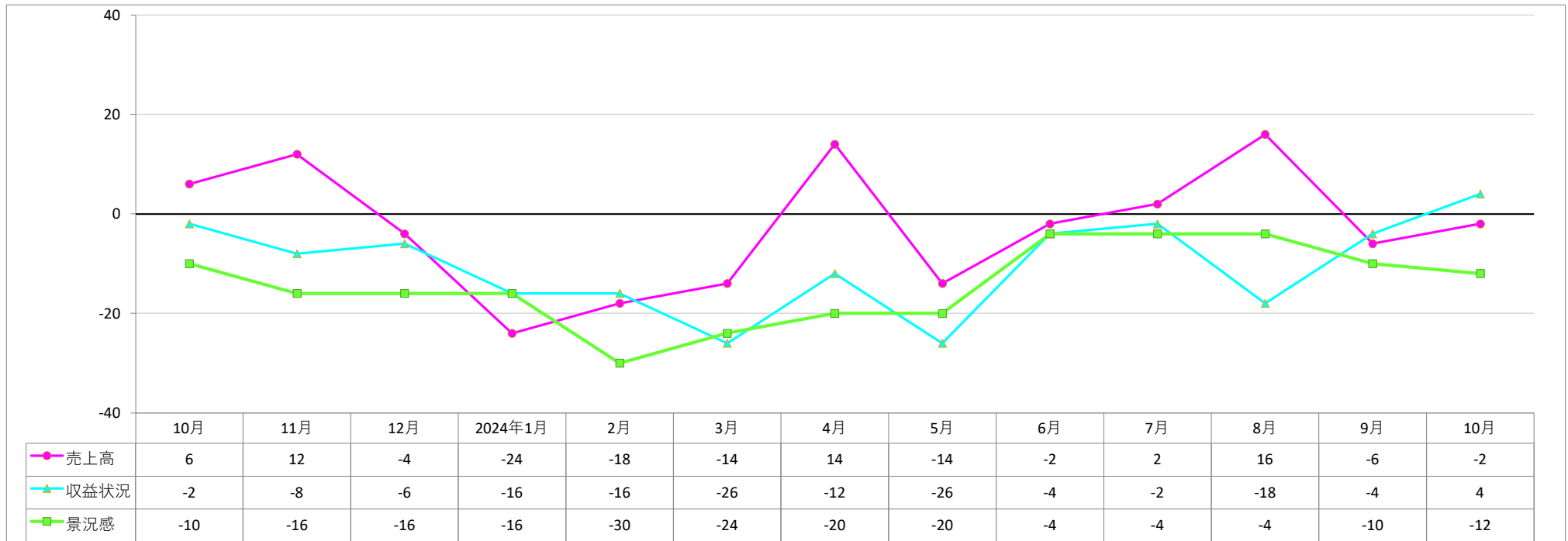
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



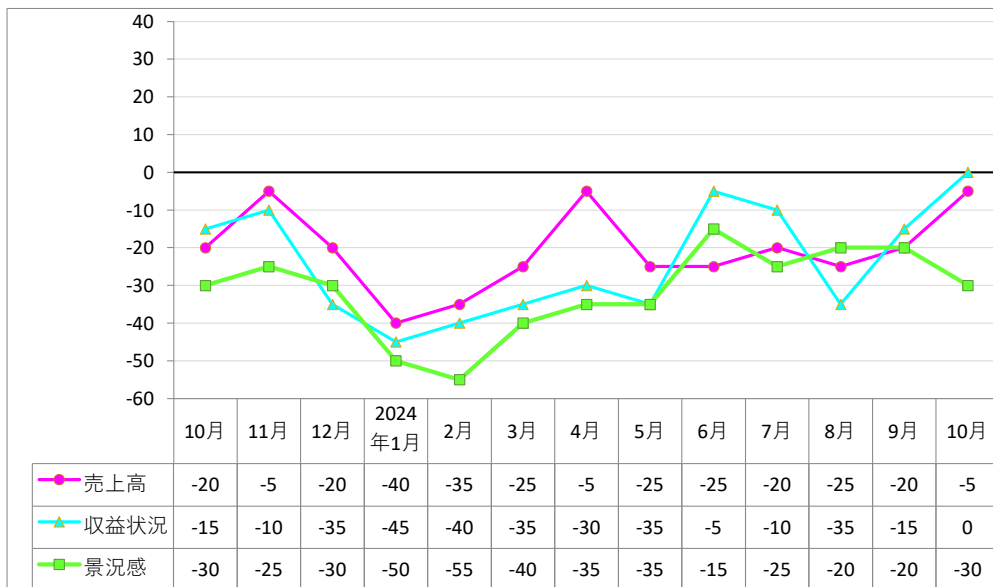
D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月~2024年10月



D.I値の推移②(過去1年間) 2023年10月～2024年10月



【製造業】



【非製造業】

